

鈴鹿市環境審議会（第5回）議事要点録

1. 名称

令和4年度 第5回鈴鹿市環境審議会

2. 日時

令和4年10月3日（月）15時30分～17時45分

3. 場所

鈴鹿市役所 本館5階 502・503会議室

4. 参加者

鈴鹿市環境審議会（9名）

甲斐穂高，片岡淳一，坂上優子，曾山信雄，田中毅，土屋和義，長末貴大，朴恵淑，
山村直紀

鈴鹿市環境部 環境政策課（7名）

鈴木環境部長，佐竹環境部次長，岩寄課長，駒田主幹兼環境政策GL，椎名主査，中西
副主査，眞弓副主査

エヌエス環境株式会社（4名）

都甲，間宮，秋田，橋本

※傍聴者 1名

5. 式次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 本日の審議事項
- 4 議題
- 5 閉会，その他

6. 配付資料

- ・令和4年度 第5回鈴鹿市環境審議会事項書
- ・座席表
- ・資料1-1 鈴鹿市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）
- ・資料1-2 本市の将来イメージ（イラスト）について
- ・資料2-1 鈴鹿市しあわせ環境基本計画（案）

- ・資料 2-2 目標環境像について（案）

7. 内容

この議事録は、内容を要約したものである。

議題（1）鈴鹿市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について

事務局：（鈴鹿市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について説明）

朴会長：重要なことを1点補足する。

38 頁で、温室効果ガス排出量の削減目標を 2030 年度において 2013 年度比－50%としている。数値目標を－50%としているのは、知る限り県内の市町では鈴鹿市のみと認識している。数値目標を高くして実現できなければ何もならないが、目標を高くすることは、若い世代を含めてオール鈴鹿で頑張るということをし、経済優先で温暖化になってしまったという反省を踏まえ、「鈴鹿らしさ」を大いにアピールできる部分ではないかと思っている。

イラストにおいても、鈴鹿らしさを装填できたと思っている。

質問、ご意見はいかがか。

坂上委員：イラストのウサギが、ノウサギならば茶色なので、白色はおかしい。

事務局：茶色に修正します。

坂上委員：イラストで、椿大神社あたりから南に流れる鍋川、御幣川を、細くて青い線でいいので書き入れるべきである。

事務局：検討します。

片岡委員：F 1 の取り組みに賛同し共感しながら、地域住民がモータースポーツのレギュレーションに合わせるように何かを変えていこうという表現は非常にわかりやすくなった。

ただ、イラストは情報量が多すぎて、ドローンが目立たない。大事な情報は網羅されているので、ドローンの周りの背景をぼかすとよいのではないか。

事務局：ドローンの背景等、検討します。

土屋委員：40 頁の体系図はわかりやすくなったが、“「しあわせな社会」の実現”が最終目標であることがわかるように、図の右から左への流れがわかる矢印があるとわかりやすいと思う。

事務局：検討します。

土屋委員：F 1 の組織に対して、市の基本計画に F 1 の理念などを掲載することの承認をとっているのか。

事務局：サーキットを通して確認をとっている。

片岡委員：サーキットのホンダモビリティランドに確認をとっているならば、問題ない

と思われる。

曾山委員： 基本方針について、43 頁で「F 1 のカーボンニュートラルに向けた戦略に賛同し、」の文章がどこに係るのか、わかりにくい。48 頁では「F 1・・・」と食品ロスは関係ないと書いてある。51 頁では「クリーンエネルギー自動車の利用を推進します。」の後に「F 1・・・」とあり、文章構成にバラツキ感が大きい。F 1 はこれをする、市はこれをする、といった方針の書き方でないとわかりにくい。文章構成に統一感を出してもらいたい。54 頁の教育等には「F 1・・・」はない。

鈴鹿市はモータースポーツ全体に取り組んでいると認識している。モータースポーツの本来の目的は、技術開発やエネルギーの高効率の利用がどれ位できるかをメーカーが頑張っているのもので、その精神からは教育やイベントの方が親和性は高いと思う。F 1 のカーボンニュートラル戦略に引っ張られすぎている気がする。「F 1 のカーボンニュートラル…」を外出しにする方がわかりやすいと思う。

イラストでドローンが描かれているが、計画の文章のどこに記載されているのか。計画にあるものと、ないものを明確に分けるべきである。

事務局： ドローンについては、61 頁の「今後の取り組み 3」に記載する。

曾山委員： 71 頁の写真について、鈴鹿市でサンゴ礁は違和感がある。海洋なら磯焼けの方がいいのではないか。

事務局： 写真については探します。

曾山委員： 78 頁の P D C A サイクルの図が簡素すぎる。具体的に P D C A を、いつ、だが、どうやって回すのか、推進体制を見てもわかりにくいので、整理して頂きたい。

78-79 頁の文章の書き出しが揃っていない。書くなら、「地球温暖化対策に資する緩和策と気候変動影響に対する適応策」と明確に書かないと、文章としておかしい。

事務局： 修正します。

朴会長： 一番大事な部分の F 1 で考えてみると、循環型社会に関わる部分が強調され、温暖化の緩和策の部分で F 1 の野心的なものが出ていないので苦しい。うまく市の政策に巻き込んでいかないと、“たいしたことを言っていない”と言われて当然である。“モータースポーツの都市”である鈴鹿としてやっていくなら、しっかりとしたプランができていない。そこをどうするのか考えていかなければいけないが、目標が-50%までできているので、F 1 のモビリティをやっていけば-50%越えも可能と考えているが、市内ではっきりとした発信ができていない。あと一息なので論点整理させて頂く。

曾山委員の意見も抜本的に全部変えるのではなく、その整合性をどうする

のか、鈴鹿らしさを生かすのか、という趣旨だと思う。あと、ひとひねりが必要なので、宜しく願いしたい。

長末委員： 4 頁の第 2 章第 2 節の本文（5 行目）に「100 年に一度の変革」という表現があるが、「大変革期」の方が適切ではないか。

片岡委員： 技術屋の世界では「大改革」と呼んでいる。相当なものが変わるが、煽る必要はない。

朴会長： 「大」は入れるべきか。

片岡委員： 危機感をあおるようであれば入れてよい。

朴会長： SDGs も「大変革」と言っているので、問題ないと思う。

事務局： 修正します。

片岡委員： F 1 という言葉を使えるのは鈴鹿市のみである。他の街では使えない。ただ、F 1 が万人受けするかというと微妙であるので、上手に使う必要がある。

甲斐委員： 2 頁の本文で「※1」の注釈があるが、おかしくないか。

事務局： 「※」に修正し、3 頁の「※」の説明に誘導します。

甲斐委員： イラストの小型水力発電の配置が連続的で多すぎないか。

事務局： 見直しします。

坂上委員： イラストの伊勢型紙で、昔は着物の絵柄に使用されていたので、着物を着た人が歩く絵を追加するのはいかがか。

朴会長： 今回は見送りましょう。

甲斐委員： 61 頁の「今後の取り組み 3」のバイオ系の研究のような挿絵が、技術系の本文の内容に合っていない。

事務局： 挿絵を再考します。

山村委員： 同じく 61 頁の「今後の取り組み 2」の水車の挿絵が、主に太陽電池について書かれた本文の内容に合っていない。

事務局： 同じく挿絵を再考します。

山村委員： 24 頁の図 12, 図 13 について、何を示す折れ線や棒グラフかわからないので、説明が必要である。

事務局： 修正します。

山村委員： 10 頁の図 3 について、入ってくる太陽光と出ていく熱の量が同じに見えることから、エネルギー保存の法則から違和感がある。

朴会長： 全国地球温暖化防止活動推進センターに問合せして、あれば最新版にしてはどうか。

事務局： 温暖化のメカニズムという用途で違う出典になるかもしれないが探します。

曾山委員： 59 頁の図 39 で、挿入されているイラストが 2030 年であるならば、タイトルを 2030 年にすべきではないか。

事務局： 図中のイラストを 2030 年あたりに表示するように修正します。

朴会長 : 45 頁には設立式の写真は入るのか。
事務局 : 挿入します。
朴会長 : 他に意見はないか。
今日、今回の第 5 回で、この区域施策編について一堂に会して議論するのは最後になる。パブリックコメントはいつか。
事務局 : 12 月から 1 月です。
朴会長 : 10 月 6 日(木)までに、修正等があれば事務局に連絡してもらいたい。
イラストの修正もたいへんだが修正してもらいたい。
基本計画の審議に移り、時間が余ればまた区域施策編の審議に戻りたい。

議題 (2) 鈴鹿市しあわせ環境基本計画の策定について

事務局 : (鈴鹿市しあわせ環境基本計画(案)説明)
土屋委員 : 18 頁について、分かりやすくなったが、右の方に「維持」と書かれており維持は後ろ向きに捉えられるため、「さらなる高みに」とかに変えたほうが良いのではないか。
事務局 : 変更することとする。
甲斐委員 : 18 頁の横軸と縦軸、20 頁のグラフの横軸のパーセンテージの値が小数点第一位まで記載されているが、必要ないため、修正するべきではないか。
事務局 : 修正することとする。
曾山委員 : 18 頁以降の図の字の書式を揃えたほうが良い。また、27 頁の体系図の基本目標 1 だけが字が細くなっているため、こちらも統一するべきではないか。
事務局 : 統一することとする。
坂上委員 : 8 頁の(6)の脱炭素先行地域の記述について、たとえば、鈴鹿市の今後の方向性を記載するのはいかがか。
事務局 : ここではあくまで国内外の現状を記載しているところであるため、現状どおりとしたい。
坂上委員 : 48 頁の環境教育の施策 2 の情報発信の充実について、森林環境などは含まれず、温暖化対策のみとなるのか。
事務局 : 環境教育は全般と考えている。
坂上委員 : 横の図を見ると、温暖化対策のみと捉えられるため、自然環境に関するものもあれば良い。
事務局 : 自然環境に関する情報発信の図を入れる。
田中委員 : この計画の図の中で、字がつぶれてしまっているものが多々あるため、読めるようなものに修正するべきではないか。
事務局 : 文字が読めるような形で修正する。

片岡委員： 情報発信の媒体について、スピードが早い SNS を追加したほうが良いのではないか。企業でも多く取り入れている。

事務局： SNS も情報発信の媒体として追加する。

朴会長： この広報すずかは、紙媒体だけでなく、ホームページなどでも見られるのか。

事務局： 見ることができる。

朴会長： それでは、25 頁に入る目標環境像の議題に移る。

坂上委員： 最後は「鈴鹿」が良いのだが、「ひらがな」が良いか、「漢字」が良いか。

甲斐委員： 「ひらがな」だと柔らかい感じがし、「漢字」だと恰好良い感じがする。

坂上委員： アルファベットだと世界的な感じがする。

朴会長： カタカナはどうか。

甲斐委員： 微妙な印象を受ける。

朴会長： やはり「ひらがな」か「漢字」かのどちらかになる。

それでは、まず前に来るフレーズを先に考えることとする。

甲斐委員： 「カーボンニュートラル」を前面に出していくかどうかで大きな違いがある。

朴会長： まずカーボンニュートラルを前に。

「しあわせ」はひらがな。「持続可能な」や「みんな」が必要ではないか。

坂上委員： 「豊かな自然」もどうか。

土屋委員： 両計画で「カーボンニュートラル」で統一しているため、「脱炭素」ではなく、「カーボンニュートラル」にするほうが良いのではないか。

朴会長： 「カーボンニュートラル」はカタカナにすることとする。

事務局： 「鈴鹿」の表現については、一番初めのしあわせ基本計画はひらがなであり、現在の基本計画は、漢字となっている。

(前回と現在の目標環境像の読み上げ)

朴会長： 今までの議論の中で、「カーボンニュートラル」は活かしたいという意見が一致しているため、何のためのカーボンニュートラルかということを考えてほしい。しあわせや子供たちなどを入れるといったところになるのか。

甲斐委員： キーワードだけ拾えば、「みんながしあわせ」ではないか。

朴会長： 誰一人取り残さず、みんなでしあわせになるという。

「しあわせ」はひらがなで。「みんなでしあわせ」,「みんながしあわせ」のどちらか。

「しあわせ」になるためにカーボンニュートラル社会を鈴鹿に作るということを目指す。

坂上委員： 「しあわせ」が入ると漠然としているため、具体的なものを入れた方が良いのではないか。

「しあわせ」というものが前提にあり、それが入ると漠然としてしまうため、

具体的な目標を入れる。

曾山委員： 「しあわせ」と「カーボンニュートラル」がうまくつながらない。

坂上委員： 3 頁に「鈴鹿市は、恵まれた自然環境と調和した「緑の生産都市」として着実に発展してきました。」という記載があるため、これを今回も取り入れるのか。現在は自然という言葉が入っていない。

曾山委員： 参考になるかどうか分からないが、SDG s を分かりやすく表現すると「みんながちょっとずつしあわせで安心安全に暮らし続けられること」である。これを工夫し、カーボンニュートラルを入れられないかと思う。

朴会長： ちょっとずつではなく、たくさん「しあわせ」というのはどうか。

曾山委員： たくさん「しあわせ」があるとたくさん不幸が生まれるため、みんなが少しずつしあわせ感を共有できるというのが一つ。それに、暮らし続けられるということが大事で、持続可能性を表現している。

カーボンニュートラルはゴールではなく、条件的なもので、暮らし続けられるために必要なことである。

朴会長： 例えば、いろんな幸せの程度があるが、みんながしあわせというのは抽象的か。

曾山委員： カーボンニュートラルを前に持ってきて、カーボンニュートラルで、みんながしあわせを感じられるという感じでどうか。

片山委員： ちょっとずつというのは尺度ではなく量のため、「みんなが平等にしあわせで」はどうか。

甲斐委員： 曾山委員の発言のように、カーボンニュートラルをゴールではなく、手段のため、先頭にする。「カーボンニュートラルを通して、みんながしあわせで暮らし続けられるまち すずか」はどうか。

事務局： 自然と共生や豊かな緑を入れていただくことは可能か。

鈴鹿市総合計画にまちづくりの5つの柱に「自然と共生し、快適な生活環境をつくるまちすずか」という自然と共生することや、緑と水の環境を後世に伝えるというところを入れていただきたい。

曾山委員： 「続けられる」と「まち」の間に、緑や自然と共生を入れたら良いと考えていた。

坂上委員： 「カーボンニュートラルを通して」だと煩わしいので、「カーボンニュートラルでみんながしあわせに暮らす」のほうが分かりやすい。

朴会長： 「カーボンニュートラルで、みんながしあわせになる」これについてはよろしいか。それで、「何々のまち すずか」。

土屋委員： 持続可能という言葉が消えてしまっているため、「暮らし続けられる」など持続可能な、続いていくといった言葉をどこかに入れ、そこに「緑豊かな」というつながりがあったら良いのではないか。

朴会長：「緑豊かな」という表現は今まであったということだがどうか。

事務局：最初の基本計画は「豊かな緑と澄んだ水」、現在の計画は「豊かな環境のまち
すずか 子どもたちにつなぐ 持続可能な社会をめざして」となっている。

長末委員：「持続可能な」を「緑豊かな」の前に持ってくるか迷っている。「カーボン
ニュートラルでみんながしあわせになる持続可能で緑豊かなまちすずか」はどう
か。

土屋委員：計画冒頭に市長が「緑の生産都市」と使っているため、「持続可能なカーボン
ニュートラルでみんながしあわせになる 緑の生産都市 すずか」はどうか。

事務局：先ほど出た「緑の生産都市」について、しあわせ環境基本条例を作成したとき
の前文に記載されているため、この表現は古いと感じる。

朴会長：現在の案が「カーボンニュートラルで みんながしあわせになる 持続可能
な 緑豊かなまち すずか」。

事務局：先ほど緑の生産都市について古いと言ったが、市政 70 周年のときに、市長が
「農工調和のとれた」という表現を使っていたため、訂正する。

田中委員：誰に向けて発信するのか。それを考えると「持続可能な」よりも、「暮らし
続けられる」のほうが分かりやすい。

朴会長：それでは、「カーボンニュートラルで みんなが しあわせに 暮らし続け
られる 緑豊かなまち すずか」でよいか。
(異議なし)

朴会長：これで決定とする。25 頁のこちらに見やすいように事務局に目標環境像を入
れてもらう。

坂上委員：最後に一つだけあるのだが、実行計画の 48 頁の循環型社会について、基本
計画では注釈を付けているため、こちらもつけるほうが良いと思う。

事務局：注釈を入れることとする。

朴会長：他によろしいか。
(他に意見なし)

事務局：基本計画の 25 頁については、事務局で作成の上、今日明日中にメールにて
送付する。そのうえで、10 月 6 日(木)までに、意見があれば頂きたい。
今後庁内会議を経て、パブリックコメントを実施したいと考えている。
今回は、2 月初めに第 6 回審議会を開催し、パブリックコメントの回答を報告
したいと考えている。その後、2 月下旬に市長に答申を考えている。また、次回
の審議会の時期が近づいたら日程調整する。

以 上